月刊

子どもの発達・教育ジャーナル

VOL.1
6月号

子ども自身も、「勉強ができない」「勉強から逃げる」
ということは、つらく、苦しい思いを感じています。
その解決・軽減のためには、周囲の大人が
”子どもの状況”を理解してあげる必要があるのです。

「勉強ができない」について考える読み物として
来年1月まで毎月お届けいたします。

今月のテーマ

『やる気』とは何か？

SupportS

発行：個別指導・学習塾　サポーツ京田辺
新田辺駅東側サンフレッシュ2階　0774-65-1316

一般社団法人
自分大好き・未来大好き教育普及協会
認定スクールコーチング初級講座

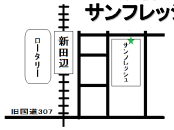
Supports 公開講座
個別指導 学習塾 サポーツ京田辺

＜保護者および学校や塾の先生など教育指導者対象＞

コーチング講座

6/22（日）　14：00～18：30
会場：サポーツ京田辺

近鉄新田辺駅東側
サンフレッシュ2F北側



受講料：￥10,800税込み
スクールコーチング養成講座初級認定料含む

協会認定講師をお招きしたセミナーです。受講後**認定証も発行**されます。
この機会にぜひご参加ください！

コーチングとは･･･本人の意思を引き出すために、
現状と目標を整理する、コミュニケーション技術です。

当講座では、コーチングを体験しながら、
コーチングの概要に触れ、
「その日から使えるコミュニケーション技術」を学んでいただけます。

講師：野村起世

一般社団法人　自分大好き未来大好き教育普及協会　認定S級コーチ：トレーナー
国家資格　キャリア・コンサルティング技能士　2級
NPO　日本教育カウンセラー協会　認定初級教育カウンセラー
一般社団法人　日本産業カウンセラー協会　認定シニア産業カウンセラー

さまざまな心理学に基づいたカウンセリングとコーチングの考え方・技法を統合的に取り入れたコミュニケーションである《和みにケーション》を用い、“I Iam OK. You are OK.”を基礎としたよりよい人間関係（和）を築き、自己肯定感（和む心）を高め、その人自身の自己実現・自立を目指すためのサポートをしている。

また、（一社）自分大好き未来大好き教育普及協会のトレーナーとしてコーチの育成、（一社）日本産業カウンセラー協会養成講座の実技指導者として産業カウンセラーやキャリア・コンサルタントの育成に携わりながら、教育現場で子どもや保護者の自己実現・自立支援の実践活動を展開。

「授業のネタ研究会」や学校の教員研修会、学習塾の講師研修会を通じて、スクールコーチングを教員向けに発信している。

東大阪市の地域情報誌「ちょっと町コミ」のシリーズ“家族で学ぶ”に《和みにケーション》を7年間連載。

＜主催＞
一般社団法人　自分大好き未来大好き教育普及協会
スクールコーチング認定校
個別指導・学習塾　サポーツ京田辺

＜お申込・お問合せ＞
TEL&FAX：0774-65-1316
supports@triton.ocn.ne.jp
＜お申込方法＞
電話・メールいただくか、このチラシのままFAXしてください。

サポーツ京田辺
連続公開講座

コーチング講座　申込書

＜申込〆切6/10＞

参加者名：＿＿＿＿＿＿　TEL：＿＿＿＿＿＿　所属または、お子様の年齢＿＿＿＿＿＿

「やる気がない」のは、本人の意思ではなく、「評価される行動」ができないということ。

「ただ問題を埋めているだけで、解ろうとしていない…」
「自分で勉強に取り組まない。叱らないと宿題もしない…」
「勉強の仕方がわからない…」
“成績が良くない”という生徒さんの多くは、単純に勉強の量が不足しているというだけではなく、いわゆる「やる気がない」と言われてしまう行動をしながらも、本人も「どうしていいかわからない」であったり、「わかっちゃいるけど、実行できない」という“悩み”を抱えているのではないでしょうか。

＜やる気とは何か？＞

“やる気”とは、国語辞典では、「すすんで物事をなしとげようとする気持ち」とあります。（大辞林）
つまり、強制されるのではなく、「とりあえずやっておこう」「できるだけやっておこう」という惰性的なものでもなく、「目標に向かって、自主的に取り組むこと。」ということです。

「目標に向かって、自主的に」ということさえ、できれば、その目標を達成できても出来なくても、「目標に向かって、自主的に取り組んだ」経験を踏み台に、次の目標（レベルアップや再チャレンジ）への“やる気”が自然と生まれてきますので、一度“やる気”になることができれば、次から次へと取り組んでいくことができるはずです。

ということは、“やる気のある人“はどんどん”やる気”が増していくという、好循環を生み、その結果として、どんどん自分の実力や身の回りの環境が向上してくことになります。

逆に自分の“やる気”ではなく、「やらされる」「せざるを得ない」という切羽詰った状況になると、一つ物事をこなして、それで「義務を果たした」と取り組みや活動を終える。そしてまた、切羽詰ってから動き始める。。という悪循環に陥るわけです。

この好循環と悪循環のによって、どんどん実力や環境に差がついていくことになります。

いわゆる「頭のいい人」「才能のある人」というのは、ほんの少しだけ生まれ持った能力が高くて、いわゆる凡人よりも早くから“やる気”の好循環に入った結果なのかもしれません。

＜目標とは何か？＞

では、“やる気の好循環”をスタートさせるためには、どうしたらいいのでしょうか？

もちろん、「目標に向かって自主的に取り組み始める」ということですが、そもそも、特にすでに、“悪循環”に陥ってしまっている人にとっては、まず“目標”を持つということ自体が難しい事なのではないでしょうか。
まず、“目標”となる事の条件を整理してみる必要があるでしょう。

1. 自分にとってメリットのあること（欲求のあること）
“目標”は、「達成することによって、自分にとってメリットのあること」でなければありません。「自分が得する。」だけでなくても、「自分がうれしい気持ちになる。」ということも含めて自分にとって”良いこと”だからこそ、それを得たい。つまり、目標を達成したい。という願望が必要です。
ここで「自分にとって」というところが重要で、例えば「テストの点が良い方がいい」ということは、誰もが共有できる大前提と思われがちですが、「学校のテストなんて関係ない。」「どうせ無理（とあきらめてしまって欲求になっていない）」というような気持ちで、本人にとってメリットのあると思えていないという場合もあるので、親や先生が思うように目標として成立しないことになるケースが生まれます。

2. 計画があること・タイムリミットがあること
「こんなことができたらいいなぁ」という願望があったとしても、「そのうち…」とか、「できれば…」という無計画、無期限の願望であれば、目標とは言えないでしょう。
タイムリミットのあるもの、もしくは、自ら期限を定めたもである必要があります。

＜やる気になるために必要なもの＞

一応“目標”として、設定しただけでは、うまく“やる気の好循環”にすることはなかなかできません。
言葉尻だけの話ですが、ちょっと想像してみてください。
「やる気のある生徒」はしやすいイメージできますが…
「やる気のある幼児」となるとちょっとイメージしにくくないですか？
もっと極端に「やる気のある乳児（赤ちゃん）」なんて、訳がわからない表現ですね。つまり、未熟なままでは、“やる気”になることはできない。“やる気”になるためには、最低限の”一定の能力”が必要ということではないでしょうか。

“やる気”になる（目標に向かって自主的に取り組む）ために必要な能力とは…

1. 持続力
「目標を立てたけど、それをすぐに忘れてしまう…」ではいけません。しかし、実際には「忘れる」という記憶力の問題ではなく、「意識」の問題として結構ありがちな話です。
このような持続力が不足していては、仮に“目標”を宣言したとしても、意味がないことは明らかでしょう。

2. 論理力
目標を達成するために必要なことを事前に想定し、“現状と目標とのギャップ”を把握するためには、論理的に思考することが必要になります。
「やってみなくちゃわからない」というのは、一見ポジティブなようですが、非常に安易かつ無責任な態度で、“目標を達成するために努力する”という“やる気”は生まれません。
「未来を予測する」ということは、論理的思考力が必要とされるのです。

3. 決断力
「この目標は達成可能なのか？」という見込みを立てること。そして、たとえば「次のテストで80点とる」ということを“目標”として定めること。そういった、“決定する”ということ自体を自分で決断することが必要でしょう。
“決断”なしにつらい努力をした（やらされた）として、目標を達成しても達成感を持つはずがありませんし、うまくいかなかった場合は、”他人のせい”にしてしまうので、本質的に”目標”や"努力”でいことでしょう。

あなたの学習をサポートします。
Supports
発達支援から受験指導まで
「勉強を教える」のではなく、”勉強の仕方”を教えます。
個別指導学習塾 サポーツ京田辺
0774-65-1316
新田辺東側サンフレッシュ2階
サポーツ京田辺 検索